



DIOCESE OF NIIGATA

656 Ichibancho, HigashiOhata-Dori
Chuo-ku, Niigata-shi 951-8106 Japan

カトリック新潟司教館

〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町656
Tel.025-222-7457 Fax.025-222-7467

新潟教区の皆様

新潟教区を離れるにあたって

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」

旧約聖書コヘレトの言葉にそう記されています(コヘレト3章1節)

わたしたちの人生は、自分で思い描いていいるようには決してならない。そう思い知らされるような現実に直面するとき、結局わたしたちの人生は、神の御手の中にあるのだと、実感させられます。そして、この10月25日に、わたしは再びそのことを実感させられました。

教皇様は10月25日、東京教区のペトロ岡田武夫大司教様の引退願いを受理され、その後任の東京大司教として、わたしを任命されました。

わたしは、自分の力の足りなさを痛感しながらも、そして新しい挑戦に直面して怖じ気づきながらも、聖霊の働きによって神様の護りと導きがあることを信じながら、教皇様によるこの任命を受けることにいたしました。

2004年9月20日に、佐藤敬一司教様の後を継いで新潟教区の司教として叙階を受けてから、すでに13年の時間が流れました。わたしは新潟教区の出身者ではありませんし、司教となる以前に新潟教区内で働いた経験もありません。13年前に突然やってきたわたしを、この教区の司教として受け入れ、ともに信仰の道を歩み、ともに祈り、ともに福音をあかしし、ともにキリストに従う道を歩んでくださった新潟教区の皆様に、心から感謝申し上げます。

毎年、8月のわたしの靈名タルチシオの祝日前後には、教区内の多くの方から靈的花束を記した色紙をいただきました。皆様のそのようなお祈りによる支えがあったからこそ、靈性においても、また人間としても力の足りないわたしが、使徒の後継者としての司教職を続けることができました。皆様のお祈りのおかげです。本当に感謝申し上げます。

教区の司祭団、特に仲間である新潟教区司祭の皆さん。修道会からやってきた司教を快く受け入れ、家族として働きを共にし、また支えてくださったことに、心から感謝いたします。少ない人数で、これだけ多くの責任を背負い、教区のため、教会のために、そして神様のために働いてくださる教区司祭団があるからこそ、司教は職務を果たすことができます。

またこの教区におられるすべての修道者・奉獻生活者の皆様にも、その献身的な働きと毎日のお祈りに感謝申し上げます。皆様のお祈りの力には、大きなものがあると、日々実感してきました。



DIOCESE OF NIIGATA

656 Ichibancho, HigashiOhata-Dori
Chuo-ku, Niigata-shi 951-8106 Japan

カトリック新潟司教館

〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町656
Tel.025-222-7457 Fax.025-222-7467

わたしは、小さい頃から人見知りで、友達の家に遊びに行くことすらできない、引っ込み思案な子どももありました。その性格は、基本的に今でもそれほど変わってはいないと思います。ですから、みんなの先頭に立って、旗を振りながら、「さあ、俺についてこい」というタイプのリーダーからは、わたしはほど遠い人間だと思います。

じっくりと時間をかけながら、少しずつ少しずつ歩みを進め、あるとき気がつくと何か変化が起きていた。そのようなゆっくりとした道を、いつも選んできました。できる限り関係する多くの意見に耳を傾け、可能な限り合意を形成するという、時間のかかる道を、いつも選んできました。ですから、大胆で素早い改革を期待された方々には、この13年は物足りなくあつたことだと思います。でもこれが、わたしなりのリーダーシップです。

人間関係の中にあっては、わたしの至らない言葉や行いで、傷つけてしまったり失望させたことも少なくなかったと思います。どうか、この13年間のわたしの至らなかつた数々の言葉と行いを、ゆるしてください。

新潟の司教に叙階された時、わたしは「多様性における一致」を司教職のモットーとして選びました。そしてこれからも東京教区大司教として、同じ言葉を司教職のモットーとしていくことにしております。

一つの体に様々な部分があるように、キリストの体である教会にも、多種多様な部分が存在して、そうして初めて生き生きとした共同体が生まれてきます。しかし多様性を保つこと、それ自体は割に容易でありながら、一致させることには努力が必要です。

新潟教区にあっても、小さな教区だといいながら、教会共同体には様々な側面からの多様性が存在します。秋田・山形・新潟の地域の違いにはじまり、出身国や文化の違い、考え方の違い。信仰の側面でも、靈性にあってマリア様のもとに結ばれる人、聖靈のもとに結ばれる人、様々な聖人の靈性や運動体によって結ばれる人。この小さな教区共同体にも、実に豊かな多様性が見受けられます。

それぞれの部分がその多様性を保ちながらも、新潟教区全体として本当に一致に到達できているのかというと、まだまだ努力が必要だと思います。カリスマの独自性を強調しつつも、互いに譲り合い理解し合うことが大切です。時として一致のために、自らの立場を犠牲にする勇気も必要です。神様からの恵みとしてせっかく存在している新潟教区における多様性が消え去ることのないように、それぞれのカリスマを大切にしながらも、全体としての一致へと導かれるように、どうぞこれからも努力を続けてください。



DIOCESE OF NIIGATA

656 Ichibancho, HigashiOhata-Dori
Chuo-ku, Niigata-shi 951-8106 Japan

カトリック新潟司教館

〒951-8106 新潟市中央区東大畠通一番町656
Tel.025-222-7457 Fax.025-222-7467

もう一つ皆様にお祈りをお願いしなければなりません。わたしは、東京教区での着座式が行われる12月16日まで、新潟の司教としてとどまりますが、その日から新潟の司教座は空位となります。これから新しい新潟司教を選任するための手続きが始まるのです。福音宣教省で候補者の選定が行われた後、日本の教会の皆さんのお見もうかがい、最終的には教皇様が判断されます。ですから、どうしても時間がかかります。司教座が空位となるこの期間の教区運営の責任者を、「教区管理者」と呼びます。札幌教区の勝谷司教様が任命されるまでのほぼ4年間、わたしが札幌教区の教区管理者を務めていたことは皆さんご存じかと思います。同じような管理者が、新潟教区にも後日発表されることになります。

この新潟教区に、新しくふさわしい司教が一日も早く任命されるように、皆様のお祈りをお願いいたします。

着座式を前に、12月9日には新潟教会で離任式ミサを行い、今の予定では12月11日頃に居所を東京大司教館に移すことを考えています。この13年間、わたしと歩みを共にしてください、皆さん本当にありがとうございました。

新潟教区は、特に聖母マリアの祈りに包まれた教区であると思っています。マリア様の取り次ぎによって、神様の豊かな祝福が、皆様おひとりおひとりの上に豊かにありますよう、お祈りいたします。

2017年11月26日

新潟司教 タルチシオ 菊地 功



+ 菊地 功 SV /